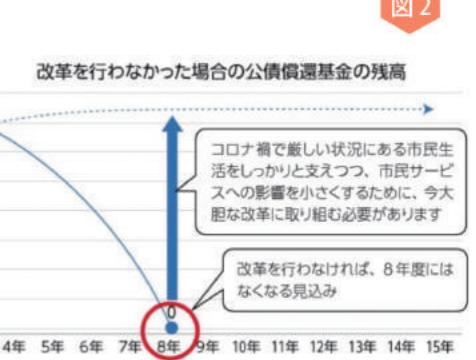
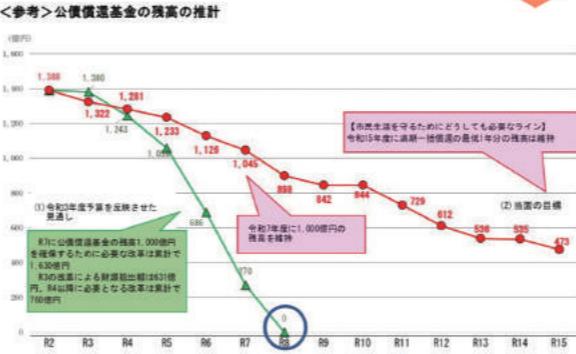


# 真実を伝えない「市民しんぶん」

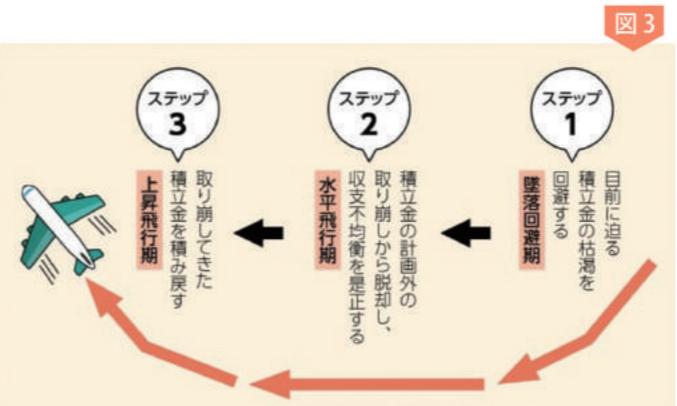
～本当の「京都市のお金の事情」～

次に、こちらの5月号では財政健全化への道筋を「墜落回避期」「水平飛行期」「上昇飛行期」の3段階と説明しています（図3）。議会にとの我が会派からの質問に対しても「中途が立たない」との答弁に終始していました。先ほどの上のグラフをご覧いただければわかるように、12年後の令和15年時点でも「墜落中」の計画しか示せていないのが現状です。このいかにも立て直しができるような記事は市民に誤解を与えるものです。

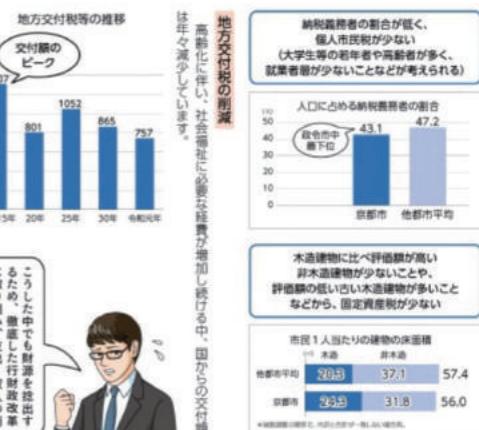
市民しんぶん2月号から5月号まで連続して掲載されている『京都市のお金の事情』というシリーズの記載内容についてです。まず、こちらの2つのグラフをご覧ください。両方とも、借金返済のための「公債償還基金」という、取り崩してはいけない基金の残高推移見込みですが、明らかに違っています。上のグラフが議会用の私たちに示されたグラフ（図1）、下のグラフが市民しんぶんに記載された市民の方々向けのグラフです（図2）。



市民向けの情報は残高が現在と同水準で維持できると勘違いをさせるグラフになっていますが、実際は令和15年度でも右肩下がりで取り崩し続けるのが実態です。この下のグラフは目標だと言いつつ、行政として根拠のないものを目標とするのはいかがでしょうか。目標を市民の方々に示すのであれば、議会にもその目標となる根拠を示すべきです。何故、市民の方々に事実をちゃんと伝えないのか不信感しかありません。



次に、3月号の「本市の収入の特徴」をご覧ください（図4）。市税収入が都市特性上少ないので、京都は地方交付税を減らすので、京都は収入が少ないから財政が厳しいのは仕方ない、と言ったような記事になっています。しかし、昨年の令和元年の決算を審議した際に公表された資料では、グラフが示すように市民1人当たりの市税と地方交付税の合計は、政令市で6番目に高いのです（図5）。



## TOPIC 2 寄付金頼み?! 不安定な予算編成

財政問題

京都市が2021年度に調達を目指す民間資金が、前年度では約11億円でしたが、今年度は計46億円と4倍になっており、そのうち約4億円は企業版ふるさと納税や個人・企業からの寄付金、協賛金となります。この約4億円のうち2億4000万円は、今年度予算で40以上の事業の財源に組み込まれています。

しかしながら、まだ寄付を募るシステムが構築できていないものや、事業を周知できていないもの、数年前から寄付を募っているが毎年まったく目標額に届いていない事業などで、本当に目標額を達成できません。今まで、芸大移転に関しても、「一条城の修理事業に関しては、本当に寄付を集めることができていません。寄付金を確保することに幾度となく本市は失敗しております。

実態はむしろ収入は他の都市に比べ多い方にも関わらず、収入が少ないことを財政難の理由として挙げられ、あたかも京都市では手の施しようがなかった、というような表現は誤解を与えます。都合の良いように作り過ぎではないでしょうか。

市民の方々には、市民しんぶんを通して、本市の真実を明確にお伝えしていかなければなりません。しかし、これでは本市の逼迫した危機的な財政状況は正確に伝わるとは思えません。今後は行政の責務として、正しい情報発信をしていくよう強く求めました。（令和3年5月21日代表質問）



## 「新型コロナ感染症関連」ワクチン接種大規模接取会場の設置を提言



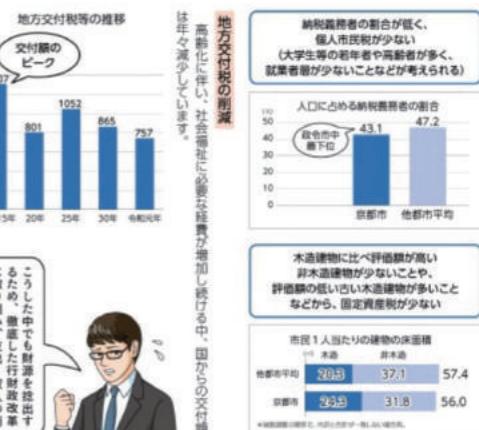
今後のワクチンの接種体制について、集団接種を主軸にするこ

とに方針転換を訴えました。とて医での個別接種が安心につけ医から受診されているかかりつけ医での個別接種が安心につながりますが、世代によつては、普段から受診されているかかりつけ医での個別接種が安心につながりますが、世代によつては、かかりつけ医がいないという方も多くいらっしゃいます。この場合、接種される方も、医療機関側も、初診であれば様々な手続きが増え、双方にとつて負担となりかねません。行政が責任を負う集団接種会場の更なる拡充を設置するよう強く求めました。その後、大規模接種会場の設置が決定され、運用が始まりました。（令和3年5月21日代表質問）



（令和3年5月21日代表質問）

しかし、2月議会での「いつステップ2の「水平飛行期」になるのか？」との我が会派からの質問に対しても「中途が立たない」との答弁に終始していました。先ほどの上のグラフをご覧いただければわかるように、12年後の令和15年時点でも「墜落中」の計画しか示せていないのが現状です。このいかにも立て直しができるような記事は市民に誤解を与えるものです。



## ②本市の収入の特徴

少ない市税収入  
市民1人当たりの市税収入は、元年度決算で他の政令市平均よりも約4千円少く、本市人口で換算すると総額が105億円も少ない状態です。  
例えばこんな要因が